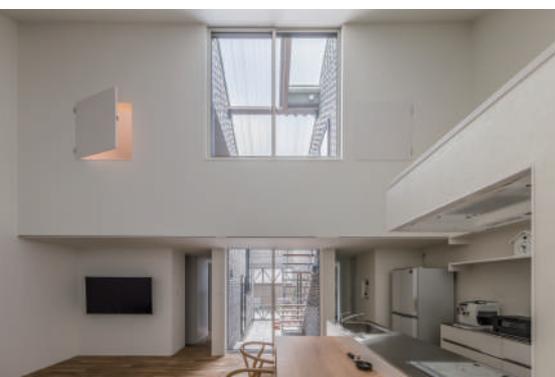




「路地を引き込み 天空光を得る」

敷地は、せんだいメディアテークから北に500m程の都市生活に事欠かない利便性の良い場所に位置する。周囲の開発から取り残されたかのように幅員4m未満の砂利敷きの狭隘道路に沿って8軒の住宅が密集する一角に敷地はある。軽自動車すら進入することが出来ない狭隘道路は、8軒の住宅の中庭のように庭木が越境し、道路とは思えない親密さがある。対して、この8軒の住宅が密集する小集落の南には5階建ての病院が建ち、冬季の採光を獲得するためには、高さ13mの位置に窓を設けることになり、この小集落のスケールから逸脱したものとなる。クライアントは、車を手放し、カーシェアを利用し、太陽の光を浴びたいときは近くの公園に散歩をする。都市空間に住まうことを求めこの敷地を購入した。住まいは、手を伸ばしても出来ない採光を求めるのではなく、大気に拡散する天空光を得ることとし、小集落の中庭を分岐するように幅2mのFRP折板で覆われた路地を引き込んだ。路地は、玄関であり、リビングであり、新型コロナウイルス感染拡大を機に在宅ワークにシフトした主人の書斎であり、1階から2階の個室への移動空間である。常時開放している防火シャッターを設けることで、防火構造を成し、中庭と路地をシームレスに接続している。木造建築は内部仕上げから外部仕上げまで気密層、断熱層、防水層、通気層と機能を持ったいくつもの層によって構成されているが、この路地は、防水層の外にある通気層を肥大化させたものであり、透湿防水シートに通気胴縁のエアホールを表にして、12mmの隙間をとって仕上げとした半屋外空間である。住まい手によって通気胴縁の隙間に12mmの棚板を差し込み、植物や置物で溢れ、天空光で満たされた路地空間は、クライアントの都市生活をさらに謳歌するための空間となる。



建築概要

- 【建物名称】 木町通の家
- 【用途】 専用住宅
- 【所在地】 宮城県仙台市青葉区木町通
- 【設計監理】 SATO+ARCHITECTS
建築設計 佐藤 充 真島 高啓(元所員)
構造設計 図設計 高橋 雷人
- 【施工】 共栄ハウジング 鈴木 渉
- 【規模】 構造/階数 木造/地上2階
敷地面積 98.77 ㎡
建築面積 69.23 ㎡
延床面積 105.19 ㎡
- 【設計期間】 2019年11月～2020年6月
- 【工事期間】 2020年9月～2021年2月
- 【掲載写真】 中山 保寛